

10/578713

IAP12 Rec'd PCT/PTO 10 MAY 2006

答 弁 書

特許庁審査官 宮崎 園子 殿

1. 国際出願の表示 PCT/J P 2004/016574

2. 出 願 人  
名 称

松下電器産業株式会社  
MATSUSHITA ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.

あて名

〒571-8501 日本国大阪府門真市大字門真1006番地  
1006, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka 571-8501 JAPAN

国 籍  
住 所

日本国 J A P A N  
日本国 J A P A N

3. 代 理 人  
氏 名

(6586) 弁理士 角 田 嘉 宏

SUMIDA Yoshihiro



あて名

〒650-0031 日本国兵庫県神戸市中央区東町123番地の1  
貿易ビル3階 有古特許事務所  
Arco Patent Office, 3rd Fl., Bo-eki Bldg., 123-1,  
Higashimachi, Chuo-ku, Kobe-shi, Hyogo 650-0031  
JAPAN

4. 通知の日付

11. 1. 2005

## 5. 答弁の内容

(1) 国際調査機関の見解書（1回見解書）においては、

国際調査報告で引用された下記文献、すなわち、

W O 0 3 / 0 0 5 4 5 0 （文献1）

が引用され、

本願の請求項1－12に係る発明に対して上記文献に基づき進歩性なき旨認定されています。

本件出願人は、上記文献との差異を明確化するように請求の範囲を補正しましたので、以下、補正後の請求の範囲に係る発明について意見を述べます。

### (2) 補正の根拠

請求項1に追加した内容は、請求項6に記載されていたものです。また、請求項5及び請求項7の補正は、特定の文言を削除するものです。従って、これらの補正は新規事項を追加するものではありません。

また、今回追加した請求項13の内容は、出願当初の明細書の段落[0058]の記載によって支持されます。

また、今回追加した請求項14の内容は、出願当初の明細書の段落[0090]の記載によって支持されます。

また、今回追加した請求項15の内容は、出願当初の明細書の段落[0034]、[0055]、及び[0090]の第8行、の記載によって支持されます。

従って、これらの補正は新規事項を追加するものではありません。

### (3) 意見

補正後の請求項1は、「前記マトリクス材料除去工程では、加熱及びエッチングの少なくともいずれかにより前記マトリクス材料を除去する」ことを特徴としています。一方、文献1には単に「マトリクス材料を除去する」と記載されているだけで、この請求項1の特徴的構成は全く開示も示唆もされてはいません。

また、追加した請求項 15 は、請求項 1 の特徴に加えて、「前記マトリクス材料除去工程では、加熱、光、及び減圧の少なくともいずれかにより前記マトリクス材料を昇華又は揮発させて、該マトリクス材料を除去する」ことを特徴としています。この特徴的構成により、混合材料中における電子機能材料の配向状態を残存させたままマトリクス材料を除去することができます。一方、文献 1 には、この請求項 15 の特徴的構成及びその効果は全く開示も示唆もされてはいません。

また、請求項 7 は、請求項 1 の特徴に加えて、「前記マトリクス材料は、紫外線に露光され又は電子ビームを照射された後、加熱されることにより、昇華して現像される熱現像型のレジスト材料を含む」ことを特徴としています。この特徴的構成により、混合材料中における電子機能材料の配向状態を残存させたままマトリクス材料を除去することができます。一方、文献 1 には、この請求項 7 の特徴的構成及びその効果は全く開示も示唆もされてはいません。

また、請求項 8 は、請求項 1 の特徴に加えて、「前記マトリクス材料は、感光性のポリフタルアルデヒド系材料を含む」ことを特徴としています。一方、文献 1 には、この請求項 8 の特徴的構成は全く開示も示唆もされてはいません。

また、追加した請求項 13 は、請求項 1 の特徴に加えて、「前記有機半導体化合物が、ペンタセン、テトラセン、チオフェンオリゴマ誘導体、フェニレン誘導体、フタロシアニン化合物、ポリアセチレン誘導体、ポリチオフェン誘導体、及びシアニン色素のいずれかである」ことを特徴としています。一方、文献 1 には、この請求項 13 の特徴的構成は全く開示されてはいません。

また、追加した請求項 14 は、請求項 1 の特徴に加えて、「前記配向処理工程では、液晶配向により前記混合材料を配向させる」ことを特徴としています。一方、文献 1 には、この請求項 14 の特徴的構成は全く開示も示唆もされてはいません。

よって、請求項 1 項乃至 1 5 に係る発明は、当該技術分野の専門家にとって文献 1 から自明のものではありません。

(4) 以上のように、本願の請求の範囲各項に係る発明は進歩性を有するものと思料します。

従いまして、いま一度御精査の上、これらの発明につき進歩性を有する旨の認定を賜りますようお願い申し上げます。

以上